令和4年度　鑑石園高齢者地域支援窓口　事業報告書
（富士市委託事業）

１．事業運営の概況

富士市からの委託を受け、原田・青葉台の両地区（富士市吉原中部地域包括支援センター・富士市北部地域包括支援センター）のブランチとしての機能を担ってきた。総合相談機能の一部を地域に展開し、高齢者及び高齢者を抱える家族が、住みなれた地域で安全安心に生活が続けられるよう、各機関と連携しながら、事業を適正に運営した。

２．事業計画実施状況

（1）　地域に根ざした相談窓口

①　地域との連携

・民生委員・まちづくり協議会・福祉推進会・悠容クラブ・サロン・地域住民の体操教室等との連携は、新型コロナウイルス感染症に対する配慮をした上で行った。

・地域の行事（原田公園まつり等）については、そのほとんどが中止となったため、協力できないことが多かった。

②　相談窓口について

・昨年度に引き続き、原田農協で年金入金月（偶数月）に移動相談窓口を開設し、地域へ相談所の周知をした。その他、原田まちづくりセンターと滝川福祉センターで各月１回、青葉台まちづくりセンターで各月２回相談窓口を開設した（令和４年度もコロナ禍の影響はあったが、移動相談窓口は予定の期日に開催できた）。

・鑑石園での相談受付は24時間365日対応とし、地域の高齢者が安心して暮らすことができる体制を確保した。

③　原田清流クラブとの連携

・原田清流クラブ（及び鑑石園健康づくりデイサービス）の利用希望者及び利用中の方の日常生活の相談や介護保険への移行について、地域包括支援センターと連携しながら支援をした。

（2）　地域ネットワークの構築

①　各種会合への参加

・原田地区民児協（毎月）・青葉台地区民児協（毎月）

・原田地区福祉推進会（随時）・青葉台地区福祉推進会（毎月）

・原田地区悠容クラブ・（毎月）青葉台地区悠容クラブ（毎月）

・ご近所さんの体操教室（毎月）
・秋葉講（2 カ月に一度）
新型コロナウイルス感染症に配慮した上で、上記会合に出席した。ただしコロナ禍のため、中止となった会合も多かった。

② 地域への広報活動
・「てるて news」を発行し、訪問先へ持参配布した。
・原田地区の全世帯に「てるて news」「水のかがみ」を回覧した。
・原田まちづくり協議会と連携して介護者教室（てるての知恵袋）を年に 1～2 回開催し、地域との繋がりを築く予定だったが、コロナ禍のため中止となった。
・地域の会合に出張し介護予防などを中心とした出前講座を開催した。なお今年度は、富士市高齢者支援課の依頼により、まちづくりセンターでの「脳いきいき教室」の講師を3回勤めた。

（3） 富士市役所や他地区の受託窓口との連携・協力
・毎年3月に富士市高齢者支援課主催で開催する窓口会議は、令和4年度は2月に研修会として実施された。残念ながら、諸般の事情で鑑石園からは出席できず、後日資料のみ頂いた。
・折を見ては、高齢者支援課の職員や他の受託窓口の相談員と連絡を取り連携・協力に努めた。

（4） 担当地域包括支援センターとの連携
・吉原中部・北部地域包括支援センターが主催する地域包括ケア会議への出席や、認知症サポーター講座などにスタッフとして積極的に協力した。
・吉原中部・北部地域包括支援センターへ毎月の実績報告の他、相談や打ち合わせを行い、連携を深めた。
・高齢者の実態把握と見守り活動により本人と家族を支援した。
・要介護認定や軽度生活援助など各種サービスの利用手続きや申請を本人や家族に代わって行った。

（5） 職員資質の向上
・法人理念や職員信条を、朝礼時等に唱和し遵守する事で、高い意識と自覚のもと業務に努めた。
・積極的に内外部研修に参加し、自己研鑽に努めるとともに、研修参加後は他職員への指導を行う等、職員全体の資質向上に努めた。